

【全分掌】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>努力する心をはぐくみ、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい生徒の育成を目指す。あわせて、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。また、あらゆる教育活動を通して、生命と基本的人権を尊重する態度や実践力を育成する。</p>	<p>(0) 新型コロナウイルス感染症が5月8日以降感染症法上の5類扱いとなり、これまでのさまざまな制限が取り払われ、ほぼコロナ禍前の教育活動を実施することができた。新型コロナウイルスへの感染者数も減少し一定の落ち着きを取り戻したが、その一方でインフルエンザが大流行し、2学期後半には3クラスで学級閉鎖の措置を取った。</p> <p>(1) 公開授業週間や研究授業、ICT機器の積極的活用などを通じて、学校全体で授業改善に努めた。また、新学習指導要領における「観点別評価」が生徒の実態に即した適切な評価となるように各教科で研究を行った。しかし、学校評価アンケートの「城陽高校の授業はわかりやすく、興味が湧く授業がほとんどだ」という質問項目に対して、37%の生徒が否定的な考えを持っているという結果が出ているため、さらなる授業改善に取り組む必要がある。</p> <p>(1) 3年生の学校紹介による就職については今年度も内定率100%を維持することができた。また、大学入試では、学年部、進路指導部、各教科の連携により、国公立大学5名合格を始め、延べ180名以上の合格者数を出すことができた。今後も情勢を見極めながら、きめ細やかな質の高い進路指導をおこなっていく必要がある。</p> <p>(2) 一人一台端末によるICT教育の推進の取組も2年目を迎え、全ての教科でタブレットを活用した授業が実施されている。しかし、その活用頻度については、依然として教科や教職員の年代によるバラつきが見られる。生徒全員がタブレットを持つ次年度に向けて、教職員全体のスキルアップが望まれる。また、MDMによる管理が廃止されるため、デジタルシチズンシップ教育等による生徒の情報モラルの向上にも取り組まなければならない。</p> <p>(3) 2年生での「総合的な探究の時間」の本格的な取組がスタートした。2週間に1回の頻度で担当者会議を実施し、そこで授業の進め方や運営上の課題等について協議を行ったことが、スムーズな運営につながった。次年度以降は、担当者の負担軽減を図りながら、いかに内容を充実させていくかが課題である。</p> <p>(4) 生徒の中に一定の規範意識や人権尊重の意識は定着している。次のステップとして、自分自身で主体的に考え、より良い選択と行動ができる生徒の育成を図りたい。その一方で、学習や行事等全てにおいて消極的な生徒に対して、いかにモチベーションを引き上げ、自己有用感を高めていくかが今後の重要な課題である。</p> <p>(5) 前期選抜B方式や1年生全員の部活動等加入の取組により、体育系部活動では多くの部が活発に活動できている。一方、女子の部活動加入率を高め、文化系部活動への入部者を増やすなど、全体での活性化をどうやって実現していくかが今後の課題である。</p> <p>(6) 生徒の心身の状況把握に努め、学校不適應に対応した。また、漢字の読み書きに障害がある生徒の考査受験に対しルビ問題の作成やパソコン入力などの対応を行うなど、支援を要する生徒に個別の支援計画に基づいた適切な支援を行った。</p> <p>(6) 長欠入試で入学した生徒以外にも、年度途中で不登校となり転学していく生徒が年々増加している。府教委が実施した令和5年度入学生向けのアンケートの「入学校に対して満足しているか」という設問について、本校入学生では「どちらかといえば不満」「不満」の合計が全体の31.9%（府立高校全日制普通科平均15.0%）という高い数値となっている。現状、生徒がどのような点に不満を抱いているかを分析し、本校の教育活動の改善を図っていかなければならない。</p> <p>(7) 学校説明会を9月、11月に実施した。今年度は中期選抜受付段階で20名の定員割れを起こした。第2順位、第2志望で18名が合格したが、最終的には合格者278名となり、2名の定員割れを起こした。中学生、保護者から選ばれる学校として、さらなる魅力アップに努めていきたい。</p>	<p>① 不断の授業改善に努め、生徒の実態に応じた授業実践を通して学習意欲を喚起し、確かな学力の定着によって、生徒の希望進路を実現する。</p> <p>② BYODによる一人一台の学習用タブレット完成年度を迎え、あらゆる教育活動で活用し、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進する。</p> <p>③ 「総合的な探究の時間」の学習を通して、生徒が自己の在り方・生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成する。</p> <p>④ あらゆる教育活動をとおして、生徒の自己有用感を高めるとともに、常に規範意識と人権尊重の意識を持ち、自分自身で主体的に考え、より良い選択・行動ができる人間づくりをめざす。</p> <p>⑤ 部活動においては、その意義を踏まえ、生徒が常に向上心を持って活動に打ち込める環境づくりを行い、活動を通じて学校への帰属意識や母校愛の醸成を図る。</p> <p>⑥ 学校不適應生徒や特別な支援を要する生徒に対して、専門家の助言を踏まえた組織的な対応により適切な支援を行う。</p> <p>⑦ 内外における学校評価に基づき、生徒や保護者、地域のニーズを的確に把握し、教育活動の点検及び改善に努める。</p>

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
教務部	学力向上	学力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に課題を持つ生徒が多数入学してくる本校の状況を踏まえ、各教科で基礎基本を重視した指導の充実を促進する。 ・基礎補充・基礎固め学習会・大学生教育ボランティアによる補充等を昨年に引き続き実施し、成績不振者への指導を継続する。 				
		学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科、学年部と連携し、家庭学習推進週間など自主的な学習を促進する取り組みを企画、実践する。 ・Classi等の学習ツールの活用を促進し、教務部の取り組みの強化・充実を図る。 				
	授業改善	充実した授業の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・教員生徒相互の信頼関係を基盤に、落ち着いた規律ある学習環境づくりを促進する。 ・ベル始業、授業はじめ・終わりのあいさつ、携帯電話の注意等引き続き全教職員で一致した指導を行う。 ・生徒の実態に応じた授業実践を通して、学習意欲を喚起し、主体的に学習する態度を育成する。 				
		教科の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学び、行動する生徒の育成を目指し、学習に対するモチベーションの向上を目指す。 ・公開授業、授業アンケート、教科内交流等を実施し、指導内容、指導方法の工夫改善を促進する。 ・授業公開等を企画し、電子黒板、タブレット等のICT機器や、Classi、ロイロノート等の学習ツールのさらなる活用を促進し、全教職員のスキルアップを図る。 				
		新指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価について、生徒の実態に則して適切な評価となるよう各教科と連携し改善を進める。 ・総合的な探究の時間の実施においては、担当者の負担軽減を図りながら、スムーズな運営と質の高い授業を目指し改善を図る。 				
	図書館教育	読書内容の深化	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は貸出冊数の増加が見られ活字主体の図書の利用も増えたが、依然マンガ中心の利用が多い。今年度も広報活動や学年、教科の協力も得ながら活字主体の図書の利用増を目指す。年間の貸出冊数の55%を活字主体の図書の利用となることを目指す。（昨年度47%） 				
		教科・分掌との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職員向け図書館だより」の発行などで学校図書館の存在意義についての情報発信を行いながら、2年次の探究学習を始め、各教科・学年・分掌などと連携し、図書館利用を通じて生徒の基本的な情報検索・活用能力を養う。環境整備面ではコピー機の導入を考える。 				
		図書委員会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を取り入れながら読書週間などのイベントを通じて生徒の活躍の場を増やし、図書委員会のさらなる活性化を図る。 				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
生徒指導部	基本的生活習慣	生徒が学校に軸足を置いた生活を送れるように、さまざまな指導を全教職員で連携して行う。	・ 基本的な生活習慣の定着と規範意識の向上のため、遅刻、制服の正しい着こなし、身だしなみを整えることに重点を置き、指導が必要な生徒には丁寧に話をし、寄り添った指導を行う。				
			・ 登下校でのマナー（電車マナー含む）を周知徹底するとともに、事故の数（特に自転車事故）を少なくできるよう城陽警察や地域ボランティアの協力のもと、注意喚起を継続的に行う。				
			・ 全学年がタブレットを所有するようになったことでより一層、SNS等のトラブルを未然に防ぐためにスマートフォン等の使い方やマナーを指導する。				
	特別活動	部活動・生徒会活動・ボランティア活動を活性化する。	・ 全部活動で挨拶、礼儀、清掃活動等を行うことで活性化を図る。また、学校行事において部活動員が積極的に参加することにより、学校運営の柱となれるようにする。				
			・ 1年生部活動一斉加入では、未活動者がでないように各部活動で継続的な指導を行い、生徒が活動できる場を提供する。未活動者については学期ごとに活動状況を把握し、指導を行う。また、2・3年生についても3年間継続できるような指導を行う。				
			・ 生徒会活動を中心にして、各委員会やボランティア活動を活性化し、生徒が主体的に活動できるような環境をつくりサポートする。また、各行事においては新しい取り組みを少しずつ取り入れることを検討する。				
	いじめの防止	いじめの定義について全教職員で把握し、いじめに対して早期に対応できるようにする。	・ 職員会議等がいじめの定義について周知し、生徒についての情報共有や教員間の連携を行うことで早期に対応できるようにする。				
			・ いじめ対策委員会を開くことで、情報の共有を密にし、組織でいじめに対して対応できるようにする。				
	人権教育	学年や分掌・教科と連携しながら、さまざまな人権問題について学習を深め、人権尊重の実践的態度を育む。	・ 3年間を見通した系統的な人権学習を計画し、実行する。				
			・ 「人権教育だより」の発行を通して、人権教育をすべての教職員にフィードバックする。				
進路指導部	キャリア教育の推進および希望進路の実現	生徒の進路に対する意識を高め、希望進路の実現に向けた意欲と学力を向上させるとともに、自ら進路を切り拓く能力や態度を養う。	・ キャリア教育実施計画に基づいて進路学習を充実させ、家庭・地域との連携を柱とした「TAG城陽」の取組を推進する。また、就職の複数応募制度や新学習指導要領に対応した新入試への研究を深める。				
			・ 就職補講や進学補講、業者模試等を適切に実施することで、主体的に学習に取り組む生徒集団を形成するとともに、生徒が自分自身で進路を切り拓く能力や態度を養う。				
			・ 「進路のしおり」の充実を図り、各種説明会を実施することで最新の進路情報を適切に提供するとともに、学年部と連携し生徒とのカウンセリングの機能を高める。また、ICT機器を活用した進路指導を推進する。				

分掌	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
保健部	保健管理	生徒の理解（教育相談）と支援	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断や健康相談を実施し、生徒の健康状態の把握と指導に努める。 担任や教科担当者と生徒の情報を共有し、教育相談会議を通して、支援につなげる。 特別支援教育の視点を活かし、支援対象生徒の把握と支援に努める。 				
	校内研修	教職員の指導力向上	<ul style="list-style-type: none"> AEDの使用法も含めた救急救命の校内研修会を実施することで、生徒が倒れた場合などに、教職員が適切な対応を取れるようにする。 				
	安全管理	校内美化・環境整備	<ul style="list-style-type: none"> 保健委員会の活動の一環として校内美化に取り組み、各学期に1回は校内美化の活動を行う。 				
総務企画部	外部評価	学校評価アンケートの回答数確保及び年度比較による取組の検証	「学校評価アンケート」について、昨年度に引き続きあらゆる手段を講じて回答数の増加を目指す。 「回答結果の年度毎の推移」を、今後の本校のあるべき方向性を検討するための材料に資するよう努める。				
	家庭・地域社会との連携	P T A、関係各種機関との連携、協力を進めるとともに、効率的な連絡手段を活用した運営に努める。	P T A諸会議の運営に係る打ち合わせ等について、夜間の会合を精選するとともにS N S等の連絡手段の活用し、P T A役員間連携を図り、より効率的なP T A諸活動の運営に努める。				
	広報	地域及び次年度生徒募集に資する広報活動を行う。	「進化から深化へ」のスローガンに基づき、訴求力のある情報発信に努めるとともに、「深化」していく本校の姿を山城管内中学校・保護者等・学習塾等に広くアピールしていくことを目指す。				
			広報活動全般について、「生徒の主体的な活動」を中心にした展開に努める。				
			公式HP運営に当たっては、外部に向けた広報機能を堅持するとともに、月間行事予定等、学校関係者にとって有用な情報の提供を心がけ、小まめな更新に努める。				
国際理解教育	国際理解教育講座の円滑な企画運営	年間L H R計画の中に国際理解教育講座を位置づけ、より生徒が興味・感心をもって学習することが出来る内容を企画する。					
第1学年部	生徒指導 特別活動	礼儀や規律の姿勢を身に付けさせる行事、部活動への積極的参加を促す。	<p>関係分掌及び家庭と連携し、日常的に細やかな指導を行う。</p> <p>学校生活の重要性を認めることができるよう、様々な観点から生徒と学校を関わらせていく。</p>				
	進路指導	進路目標を早期に設定させる。文理選択を適切に行わせる。	進路指導部の計画に沿ったキャリア教育を進めながら、小まめな面談や丁寧な観察を行い個に応じた指導を行う。				
	学習指導	成績不振科目を保持させない。	教科担当者と連携をとりながら学習習慣を定着させる。				
第2学年部	学習指導 進路指導	進路目標を明確化させる。	科目登録を契機として進路目標の明確化に向けた情報収集を行わせるべく、進路学習や面談を積極的に活用する。				
		基礎基本の学力を定着させ、より発展的な学力を身に付けさせる。	教科担当者と情報交換を密に行い、指導の余地を残さないようにする。				
	生徒指導	規範意識を徹底させる。	日常の細やかな観察を行い、ルールを守ることを徹底させる。				

分掌 部	評価領域	重点目標	具体的方策	評価			令和6年10月時点での成果と課題
				中間	期末	総合	
	特別活動	個々の生徒が充実感、達成感を感じられるように指導する。	文化祭、体育祭、研修旅行等の学校行事において、全ての生徒に役割を担当させ、責任感と集団への帰属意識を持たせる。				
第3 学年 部	学習指導 進路指導	熟考した上での進路の実現に向けて努力を重ねられるように、進路指導を丁寧に行う。	新課程での入試に向けて、しっかり情報収集させ、希望進路を実現させられるようサポートする。 各分掌や関係機関と連携して進学や就職に向けた適切な指導を行う。また、教科担当者とも連携を取り、普段の授業を大切にさせる。				
	生徒指導	規律、規則の重要性を理解し、自ら考え、集団を意識しながら行動できる力を身に付けさせる。	様々なルールをただ守らせるのではなく、理由を理解させたうえでの継続指導をおこなう。適切な場面で、「人権尊重の考え方」に触れ、人権意識を高める。				
	特別活動	学校行事、部活動を通しての人間形成	最高学年として、下級生の模範となる行動を実践できるように心掛けさせる。 部活動や学校行事を通して、生徒一人一人の自己有用感を高め、「城陽高校への思い」のこもった良好な学校生活の基盤を作る。				
事務 部	渉外	学校と住民・来校者等をつなぐための、迅速で適切な窓口対応、電話対応を行う。	学校行事、校時、教職員の動向の把握に努め、事務室内で情報共有する。 来校者の目的・用務先等を正確かつ丁寧に把握し、来校者が円滑に目的を果たせるよう努める。				
	就学援助	生徒と保護者が安心して教育を受けることができるための経済的支援体制の充実に貢献する。	就学支援金や奨学金などの各種援護制度について、生徒と保護者へ周知が図れるようClassiやホームページの活用をより進める。 生徒に不利益が生じないように、状況に応じて学級担任や他分掌との連携を密にする。				
	施設設備	安心安全な学校の環境整備に向けて最善を尽くす。 ICT環境野整備を図る。	状況改善のための迅速な対応に努め、生徒や保護者に向けた報告等を心がける。 ICT環境整備に向けて関係分掌との連携を図り、機器の整備に努める。				

【全教科】令和6年度 府立城陽高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）計画段階

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
国語科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。また、生徒が理解しやすく、意欲が高まる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶（起立・礼）をしっかりと行うなど、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで学習意欲を喚起し、理解しやすい授業を展開する。 				
	国語の学力を向上させ、生徒の希望進路実現に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習、課題を定期的に課すことで家庭学習を行う習慣をつけさせる。また、小テスト等を適宜実施することで、学力の向上を目指す。 ・配慮が必要な生徒や大学進学を考える生徒が増えている実情を踏まえ、個々の学力に応じた指導を強化する。また、大学入試対策として、1年次から小論文対策指導を行っていく。 				
地歴公民	世界の諸問題に対する思考力の向上と、主権者としての政治的教養の育成	<p>歴史では日本史と世界史を関連させ、図表等を効果的に活用し、世界における日本文化の特質を理解できるようにする。また、広い視野から世界の諸問題について考える力を養う。</p> <p>地理では地図帳・資料集を活用し、生徒の問題意識を視覚的側面からも刺激する。</p> <p>公民では現代のニュースと授業を関連させ、最新のデータ等を効果的に活用して生徒の知的好奇心を喚起させるとともに、主権者としての自覚をもたせる。</p> <p>ICTの活用機会を増やし、様々な図や資料を掲示することで、生徒のさらなる意欲・関心の向上に取り組む。</p>				
数学科	学習意欲を喚起し、確かな学力の定着を目指す。	私語のない、授業規律の確保に努める。				
		（週末）課題を与え、学習習慣をつけさせ、また、小テストを行い基礎力の定着を図る。				
		ICT機器の活用やグループワークなどで、生徒の学習意欲や理解力向上を目指し授業改善を模索していく。				
		個に応じた指導を行い、様々な学力層の生徒に対応した指導を行う。				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
理科	確かな学力の定着	その単元での到達目標を明確にし、教員が理解し授業を実施するとともに生徒にも明示し、基本的な知識を身につけ積み上げていくことの重要性を意識させる。				
		小テスト、週末課題を適切なタイミングで継続的に実施する。				
	主体的・協働的な学びの推進	理科が日常に結びついていることに気づかせ、生徒が学びたいと思うような授業を実践する。				
		デジタルコンテンツを中心とした視聴覚教材や実物等も用いて、生徒の興味関心をひきつける。				
		生徒がタブレットを活用し、他者とともに考えながら学べる機会を設ける。				
	不断の授業改善	教科内での交流を大切に、互いの良いところを取り入れるなど、授業改善に努める。				
教科研修を実施し、専門性の向上に努める。						
日々の授業において観点別評価を行い、その結果を分析し、授業改善に努める。						
保健体育科	集団の規範意識の向上	・挨拶(授業開始、終了時、日常)の徹底				
		・服装・身だしなみの指導、頭髪・装飾品の確認、荷物の整理整頓の徹底				
		・体育後の授業遅刻に対する指導				
	主体的・協働的で体力、考える力を育む授業	・ICT活用から生徒の主体的な学びを促進する指導				
・リーダーシップとフォロワーシップの育成 ・一斉・個別指導の使い分けと適切な水準の課題設定により、達成感・充実感を味わうことができる指導						
授業の準備・事後処理	・施設・用具点検、安全確認					
	・新カリキュラムの精選および評価研究					
芸術科	授業規律を確保し、生徒が安心して授業に参加できる空間をつくる。 また、生徒が理解しやすく、興味関心を持てるような授業を展開する。	・授業規律を確保するため、授業開始と終了時の挨拶、授業準備と片付けをしっかりと行い、学習に向かいやすい環境作りに努める。 ・ICT機器や各種資料を効果的に活用することで生徒の興味関心を喚起させ、分かりやすい授業展開を目指す。				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題	
			中間	期末	総合		
英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・「確かな学力」を身に付け、多様な進路選択に対応できるよう、授業等の創意工夫に努める。 ・ICT活用、多様な言語活動、多面的な評価の充実により、生徒達の英語学習へのモチベーションと英語力の向上を目指す。 ・英語に苦手意識を持って入学してくる生徒が多い中、生徒達が授業を通して達成感や自己有用感、自らの成長を感じられる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を定着させるため、各学年とも定期的に(週1～2回以上)単語テストなどの小テストを実施し、週末課題を課すなど計画的に取り組む。 ・個人・ペア・グループでの言語活動(音読、対話練習等)の機会や各レッスンのテーマについて考える機会を増やすことで、英語でコミュニケーションを取ろうとする態度を養うとともに、主体的に学ぶ態度を養う。 ・またパフォーマンス課題(音読テスト、レシテーションコンテスト等)を課し、英語で話すこと、人前で発表すること、自己表現の楽しさを実感させる。AETを積極的に活用して4技能5領域の向上を目指す。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ・進路実現のためのスキルアップ、英語力向上の手段としてGTECの受験を奨励する。即興性のあるスピーキング力や自らの意見を論理的に伝えるためのライティング力の向上を軸としたGTEC対策を授業に取り入れ、サポート体制を強化する。 ・HOPE講座や進学補講等を通して、入試対応力を育成することで生徒の進路実現を支える。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ・BYODによるiPad導入に伴い、教科内で効果的なICT活用法について活発な情報共有を行い、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びの推進に努める。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ・英語をコミュニケーションの手段として使う経験を通して、英語を使う楽しさを実感し、将来海外の人と積極的に関わろうとする生徒を一人でも多く育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内での英語での発表活動、イングリッシュチャットなど、生徒達が英語に対する興味関心を深められるような活動を企画、実行する。また、総務企画部と連携し、校内外にその様子を報告する。 				

評価 4：達成できている 3：ほぼ達成できている 2：あまり達成できていない 1：達成できていない

教科	重点目標	具体的方策	評価			令和5年10月時点での成果と課題
			中間	期末	総合	
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に考え、実践できる学びをすすめ、生活を自分事として創造する姿勢を育む 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生選択科目において、生徒が主体的に学ぶ活動を充実させる。フードデザインは食育に関するパフォーマンス課題、保育基礎は保育実習とそれに関わる取り組み、ファッション造形基礎では4単位から2単位への変更に対応したゆかた製作において実践する。 				
		<ul style="list-style-type: none"> 1年家庭基礎において、考えを記述させる時間を設けることで、生徒一人一人が自己を振り返り自分の考えをまとめることができるようにする。 ペア活動やグループ活動を通して、自分の考えを他者に伝えることで、他者の価値観に触れられるようにする。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 新観点別評価への対応 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生選択科目（3科目）において、新観点別評価に対応する。 				
商業科・情報科	「わかる授業」の実践を行い、個々の生徒に応じた学力の伸長を目指す	基礎基本を徹底し、定期考査の平均60点を目標に、個に応じたきめ細かな指導を実践する。				
		個に応じた「確かな学力」を身に付けさせるため、わかる授業を意識した授業を行い、学年末の成績による不振者0を目指すとともに、各種資格取得を目指す生徒の希望を実現できる学力を身につけさせる。				